

サッカーにおけるカウンター攻撃の有効性に関する研究
—2010 FIFA ワールドカップと 2010 アジア大会なでしこジャパンの比較について—

濱名 裕介 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード：カウンター チーム戦術 堅守速攻

1. 緒言

今回の 2010 年 FIFA ワールドカップ南アフリカ大会では、全 64 試合で 145 ゴールが生まれた。1 試合平均 2.27 点で歴代のワールドカップゴール数の中で史上 2 番目に低い結果となった。このように考えられるのは、今大会では、堅い守備を維持して失点を防ぎ、隙をついてカウンターで得点を取る「堅守速攻」の戦略を実践したチームが多かったと言われている。

以上のことをふまえ、さまざまなチーム戦術がある中で、カウンター攻撃がどのようなときに有効であるか、また、どのようなカウンター攻撃が有効であるかについて明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 研究方法

2010 年 FIFA ワールドカップでベスト 4 に勝ち進んだ 4 チームの決勝トーナメントから各チーム 4 試合と 2010 年アジア大会なでしこジャパンの 4 試合のビデオ分析を行う。

グラウンドを守備ゾーン、中盤ゾーン、攻撃ゾーンの三分割に区切り、どのエリアからボールを奪ってからのカウンターが有効であるかデータで求める。またセットプレーからのカウンターも調べる。

3. 結果と考察

各チームの 1 試合のカウンター攻撃の回数は 10 回も満たないことがわかった。これは、攻守の切り替えが速いチームが増えており、カウンター攻撃のチャンスも素早い切り替えで阻止されている。また、1 対 1 の局面でボールを奪う場面も多く、カウンターを阻止されていたこともわかった。

男子と女子との違いは、ドリブル、ランニング

スピードの速さ、フィジカル面、ボールキープ力に優れた選手など個々の能力で違いがはっきりしている。ボールを奪ってからカウンターのチャンスの場面で、男子はまず相手の前に身体を入れ、相手がディフェンスしにくいドリブルをしていた。女子は相手の前に身体を入れながらドリブルをしていればチャンスという場面でボールを後方に出し、消極的なプレーになり、カウンターのチャンスを逃していた。ボールを奪ってからまず自身の前にスペースがあればドリブルで仕掛けることをほとんどのチームが行っていた。スピードに乗ったドリブルで仕掛け、相手ディフェンスを引きつけてからパスを出すことで数的優位などのチャンスができ、カウンターが有効になるとわかった。

4. まとめ

カウンターというのは、全世界で攻守の切り替えが速いチームが増えており、カウンター攻撃のチャンスも素早い切り替えで阻止されている。しかし、カウンター攻撃で試合を決める一つの武器になることも本研究でわかった。

5. 参考文献

- ・大住良之、大原智子 (2004) がんばれ！女子サッカー 岩波アクティブ新書
- ・西部謙司 (2009) 日本サッカー 世界で勝つための戦術論 青春出版社
- ・サッカー用語の基礎知識

<http://homepage3.nifty.com/senga/yougo.htm>
#カ

- ・ W杯：記録集

<http://members.jcom.home.ne.jp/wcup/records.htm>